

躍進する中央アジアの新興資源国

カザフスタン

平成25年6月18日神奈川銀杏会三火会 村田 禅

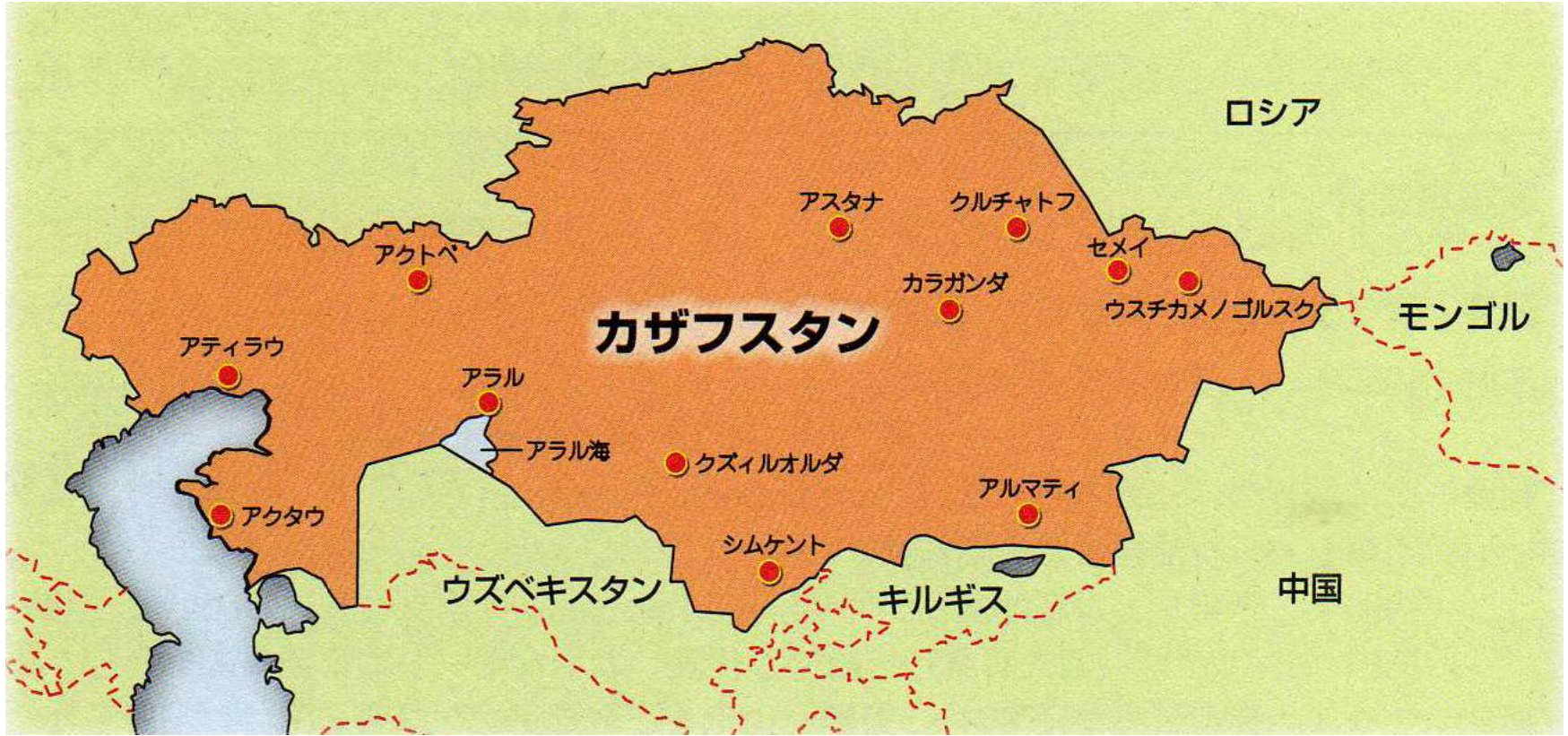
カザフスタン 共和国

(Republic of Kazakhstan)

- 地理： 中央アジアに位置し、世界最大の内陸国であり国土の大部分は乾燥した砂漠やステップで占められており、人の使える所が少なく人口の大半は首都と一部の都会に偏在している。首都はアスタナ、最大都市はアルマテイ、ロシア連邦、中華人民共和国、キルギス、ウズベキスタン、トルクメニスタンと国境を接し、カスピ海、アラル海に接する。

(中央アジアとは、旧ソ連邦崩壊後独立したカザフスタン、ウズベキスタン、タジキスタン、トルクメニスタン、キルギスの5カ国より構成され、古来からシルクロードを介して文化交流、物資の往来が盛んで、欧州とアジア、中東地域を結ぶ十字路として地政学的に重要な地域)

- 面積： 273万平方キロメートル(世界9位、日本の7倍、旧ソ連ではロシアに次ぐ)





- 人口： 1682万人(2012年8月)
- 宗教： イスラム教(70%) ロシア正教(26%)
- 民族： カザフ系(63%) ロシア系(24%)
- 言語： カザフ語(ロシア語は公用語)
- 歴史： ソ連邦崩壊により1991年共和国独立宣言
- 内政： 強力なリーダーシップを持ったナザルバエフ大統領のもと政治
経済改革を進め政権を運営し、エネルギー資源の輸出による収
益を背景に政情は安定している。2007年の憲法改正により議会
の権限強化と共に、初代大統領に限り三選禁止の条項が除かれ
ナザルバエフ大統領の長期政権の道が開かれた
- 外交： 大統領はバランス感覚に優れ、ロシア、EU、中国、米国、日本と
の良好な関係を維持し、上海協力機構(SCO)にも参加し、CIS
関連の国際機構にも普く加盟

経済の成長

- 石油天然ガスなどのエネルギー資源、鉱物資源に恵まれた資源大国。レアメタルを含め非鉄金属資源も多種豊富である（ウラン、クロムの埋蔵量は世界2位、亜鉛は世界5位）。旧ソ連崩壊後の苦しい経済情勢の中、民営化を中心とする経済改革を推進し、米国企業の参加するテンギス油田開発の始動により1996年に独立以来始めてプラス成長を記録した。1998年には、農業および重工業の低迷及びロシアの金融危機により、一端はマイナス成長に転じ（前年比マイナス2.5%）たが、1999年以降は再びプラス成長に転じ、世界的な原油価格の高騰を追い風に2000年以降平均10%と言う好調な経済成長を遂げてきた。2007年以降は金融危機による世界的な景気減退により経済成長は鈍化下。2011年には5.9%を記録。一人当たりGDPが11,356ドル（2011）と10,000ドルを超えマレーシアと並ぶ中進国となった。2次産業が未発達で資源輸出型の経済である。

豊富な資源の開発と輸出

鉱物資源に恵まれ、採掘量が世界のベスト10に入る資源が9つも存在する。亜鉛鉱(世界7位、世界シェア4.7%)ウラン鉱(3位、9.2%)金鉱(8位、1.1%)銀鉱(9位、4.5%)クロム鉱(2位、17.6%)銅鉱(10位、3.6%)ボーキサイト(9位、3.0%)マンガン鉱(8位、5.4%)鉛鉱(10位、1.4%)その他コバルト、ニッケル、鉄、等も豊富である。

エネルギー資源としては、良質の原油、石炭、天然ガスがあり、テンギス、カシャガン油田から産出される石油は、価格の高騰を背景に貴重な輸出資源である。

原油生産

カスピ海に面して2つの油田：テンギス（陸上）とカシャガン（海底）がある。

（カスピ海は日本の国土面積とほぼ同じ約38万平方キロあり、周辺をロシア、アゼルバイジャン、イラン、トルクメニスタンとカザフスタンの5カ国で取り囲まれており、流れ込む川は130あるのに、流れ出す川は1つもない、閉ざされた水域である。チョウザメを含む115種類の魚類と、アザラシを含む400種類以上の固有種が生息する。尚カスピ海は、ヴォルガ河と黒海に流れ込むドン河を結ぶヴォルガ・ドン運河を經由して外洋（黒海）と結ばれている。）

テンギス油田は1991年、カシャガン油田は2012年に生産開始。
テンギス油田は、CPCパイプラインの拡張につれ66万BPD、カシャガン油田は過去30年間に発見された油田の中で最も大きい油田といわれ当初は45万BPDでピーク時には、120万BPDの生産量が見込まれる。

石油基金創設とパイプラインの敷設

- 資源の国際価格の変動に備え、国家石油基金を創設し、石油収入の一部を石油基金にプールし資源価格の下落に備えている。
- これまでカスピ海から西方のロシアに向っていたパイプラインに東の中国へと向う石油パイプラインが完成し、対ロシア、EUへの石油貿易が、対中国に広がった。

バイコヌール宇宙基地

- ロシアの宇宙基地：アラール海の北東にあり、ロシア連邦宇宙局がカザフスタン政府から年間使用量1億1500万ドルで2050年まで租借しておくるロケットの発射場で、ロシア政府の司法権及び統治権が認められている。
- アメリカがシャトルの使用を止めた今日、宇宙衛星との往復は、此処を經由して、若田、野口、星出、山崎、古川らの日本人宇宙飛行士は、飛び立ち、帰還している。